

## 「胃がんリスク層別化検査」 検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、「胃がんリスク層別化検査」で運用しているヘリコバクター・ピロリ抗体検査につきまして、測定試薬を変更させていただきますのでご案内致します。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

### 対象項目

- 3777 胃がんリスク ABC
- 3778 胃がんリスク E 群

### 変更期日

- 令和4年3月31日(木) 受付日分より

## ●胃がんリスク層別化検査

胃がんリスク層別化検査のヘリコバクター・ピロリ抗体試薬を、カットオフ値10 U/mLが設定された、別メーカーが販売するLA(ラテックス凝集比濁法)試薬に変更いたします。本変更に伴い、ヘリコバクター・ピロリ抗体検査の判定基準、報告下限および報告上限が変更となります。なお、ペプシノゲン検査に変更はございません。

## 変更内容

変更内容	新	旧
検査方法	・ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC:LA LA(ラテックス凝集比濁法)	・ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC《LA》 同左
	・ペプシノゲン LA(ラテックス凝集比濁法)	・ペプシノゲン 同左
ヘリコバクター・ピロリ抗体検査の変更内容		
判定基準	10 U/mL 未満(-)	4 U/mL 未満(-)
測定試薬名	H. ピロリーラテックス「生研」	Lタイプワコー H. ピロリ抗体・J
試薬販売元	デンカ(株)	富士フィルム和光純薬(株)
報告下限	3 U/mL 未満	2 U/mL 未満
報告上限	100 U/mL 以上	70 U/mL 以上

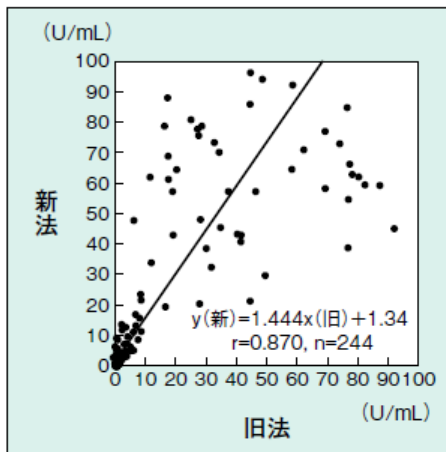
※その他の検査要項に変更はございません。

留意事項:ピロリ菌感染診断項目(臨床用)としては[1645]抗ヘリコバクター・ピロリ抗体をご利用ください。

## ABCD 分類の判定基準(新旧比較)

		【新】		【旧】	
		ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC:LA		ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC《LA》	
		(-) 10 U/mL 未満	(+) 10 U/mL 以上	(-) 4 U/mL 未満	(+) 4 U/mL 以上
ペプシノゲン	(-)	A群	B群	A群	B群
	(+)	D群	C群	D群	C群

## LSI メディエンス検討データ



判定一致率

		旧法		計
		陽性 (+)	陰性 (-)	
新法	陽性 (+)	77	3	80
	陰性 (-)	5	159	164
計		82	162	244

陽性一致率：93.9% (77/82)  
陰性一致率：98.1% (159/162)  
判定一致率：96.7% (236/244)

## ご依頼方法

ご依頼の際は、3777 胃がんリスク ABC、3776 ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC、3337 ペプシノゲン ABC の 3 項目同時にご依頼下さい。

依頼方法	検査項目名	3項目同時依頼	
	胃がんリスクABC		3777
		3776	ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC
		3337	ペプシノゲンABC

## ピロリ菌の除菌治療後のご依頼方法

ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、胃がんリスク層別化検査判定対象外となるため、ヘリコバクター・ピロリ抗体とペプシノゲンの測定値をご報告し、ABCD 判定は行わず、E(Eradication)群としてご報告致します。

ご依頼の際は、3778 胃がんリスク E 群、3776 ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC、3337 ペプシノゲン ABC の 3 項目同時にご依頼下さい。

依頼方法	検査項目名	3項目同時依頼	
	胃がんリスクE群		3778
		3776	ヘリコバクター・ピロリ抗体/ABC
		3337	ペプシノゲンABC

**留意事項**: E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

# 「胃がんリスク層別化検査」報告書(見本)

「胃がんリスク層別化検査」報告書のレイアウトを一部変更いたします。

[表面]


[裏面]

**胃がんリスク層別化検査**


受診者名		性別
氏名	性別	年齢
出生日	検査日	受付日
		検査日

**ABCD分類判定結果 \*\*\*あなたの胃の状態\*\*\***


**A** 胃  
健康な胃




**B** 胃  
少し弱った胃



**C** 胃  
弱った胃



**D** 胃  
かなり弱った胃



コメント

**ABCD分類判定対象外**

**E** 胃(除菌済)

ヘリコバクター・ピロリ除菌済の方は、5年(除菌済)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。

**ペプシノゲン/ヘリコバクター・ピロリの判定結果**

検査項目	判定	検査項目	判定	測定値
ペプシノゲン	判定	ヘリコバクター・ピロリ抗体:LA	判定	0.0mL
		判定基準(陽性)		10U/mL以上

ペプシノゲン検査項目

測定値	判定	補	域									
ペプシノゲンⅠ	ng/mL	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
ペプシノゲンⅡ	ng/mL	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
ペプシノゲンⅠ/ペプシノゲンⅡ 比		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
判定基準(陽性)	ペプシノゲンⅠ:70ng/mL以下かつペプシノゲンⅠ/Ⅱ比:3.0以下											

医療機関

検査実施施設

株式会社LSIメティエンス

インフォメーション  
医療機関用: (03) 5994-2111

あなたの「胃の健康度」は  
血液でチェックすることができます!

ペプシノゲン検査

+

ヘリコバクター・ピロリ抗体検査

胃の検診で多く実施されているのはバリウムを飲んでから行うX線撮影で、フィルムに写った胃壁の凹凸から胃の状態を見る検査です。この方法とは別に、2種の血液検査を組み合わせることによって「胃の健康度」を測ることが出来ます。

		ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	
		陰性(-)	陽性(+)
ペプシノゲン検査	陰性(-)	<b>A</b> タイプ	<b>B</b> タイプ
	陽性(+)	<b>D</b> タイプ	<b>C</b> タイプ

(注)今回用いているピロリ抗体測定法では、ピロリ菌抗体価10未満を陰性と判定しています。

A タイプ

おむね健康的な胃状態で、胃の健康になる危険性は低いと考えられます。生活習慣病などピロリ菌に感染しない男性に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の疑いがある方が含まれます。一部は内視鏡検査などの医療検査を受けることが望ましいです。

B タイプ

少し弱った胃状態です。胃がけいよう・十二指腸けいようなどに注意しましょう。胃がんリスクもあるため、内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

D タイプ

要病が非常に進んだ胃状態と考えられます。胃がんなどの発がんになるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてください。

C タイプ

要病の進んだ弱った胃状態と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

E タイプ

ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌済)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。

前項により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による発がん検査が必須です。

郵局：一病科医法人学芸会健康増進センター 月上和室

\*縮小して掲載しています。